

選考委員会における委員のコメント

岡崎市立羽根小学校

著作権利用のマナーを身につける～著作権情報センターのWeb教材に学ぶ～

- CRICや市販の教材，文科省作成資料等を使い，学校体制で系統的に取り組んでいるので，どの先生でも実践可能になるであろう。板書を記録していることも参考になる。今後は，指導内容に関して，学校や指導者が工夫されることを期待する。
- 道徳・特別活動の時間を使って，どの先生でもできる全学年共通のプロジェクトとした「ねらい」はいい。ただ，そのためには低・中・高学年の実践記録をもう少し丁寧に示さないと総花的な説明に留まってしまう。
- CRICの教材を活用した例。CRICが開発した発達段階に対応した著作権教育のカリキュラムを効果的に用いて，小学校の全学年に対して著作権教育を行った事例として注目できる実践である。文部科学省の情報モラル指導モデルカリキュラムとも対応しており，新学習指導要領のもとでの著作権学習・情報モラル学習の展開に当たり，他の学校でも参考となる実践事例となっている。一部市販の教材も用いているが，文化庁やCRICをはじめ，ネット上で無償で入手可能な同種教材もあり，必ずしも市販のものを購入しなくとも同様の実践が可能であると考えられる。
- 著作権を対処療法的にせず，学校全体で系統的に取り組んでいる点，情報モラル教育を，各学年で実践している点がよい。ワークシートなど，授業で使用した資料がさらにあると，なおよかった。
- 児童や指導の実態から，学校全体で著作権教育に取り組むことが必要だとの認識が教師集団から高まり，実践したことが評価できる。また，授業時数確保のために，効率よく著作権指導ができるWeb教材を活用していることもよい。さらに，心の教育の面から道徳の時間でも著作権を取り上げており，短期的・長期的な取り組みが素晴らしい。道徳で利用した教材は市販品だが，公開されている教材に置き換えれば多くの学校の参考になるだろう。
- 小学校の低学年，中学年，高学年とそれぞれの年代に応じた系統的な内容になっている。
- ICT活用推進校にしては，著作権教育や心を育てる教育の時間や内容が少ないように思う。「時間確保が難しい」という記載から，学校の現状が分かる。もう少し，生徒の声や内容を深く確認したかった。体感することが必要であり，ホンモノに触れ，制作者の感情に触れさせたいという課題は著作権教育の原点であり，重要課題である。
- 先生が取り組みやすい「5分でできる著作権教育」を活用することによって，子供たちにわかりやすく説明できた。子供たちに変容が見られ，効果が確認できた実践事例を評価する。

- 学校全体で著作権教育に取り組んでいること、C R I CのW e b教材を効果的に活用していることが評価できる。道徳の時間に各学年どの題材で著作権教育を行うか明確にし実践を行っており、発達段階に応じて6年間の連続した学び（系統性）がしっかりしている。どの授業も中身が濃い。道徳でどのように著作権教育に取り組めば良いのか多くの学校の参考になる実践である。

以上